

樋口 徹(ひぐち とおる)

教授

専門分野／サプライチェーン・マネジメント

学歴：学習院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学

学位：博士（経営学）作新学院大学、修士（経営学）学習院大学

略歴：作新学院大学経営学部教授を経て、令和4年より現職



著書：Toru Higuchi 編著（2022）『Frameworks and Cases on Evolutional Supply Chain』
IGI Global.など。

論文：樋口徹・武井孝介・芳野まい・伊藤真利子・下田俊樹・石川順章・楊正光（2026）
「都市部と中山間地域における買い物に関する比較分析 ―地理的・情動的なアクセス
格差とネット通販の可能性―」『公益事業研究』77（2）、pp. 39-49

自らの力を拡張する「梃(てこ)」としての生成 AI 活用

近年、生成 AI の技術は急速に進化し、大学教育や研究の現場にもさまざまな変化をもたらしています。レポート作成や情報収集など、学生の皆さんにとっても、AI は以前より身近な存在になりつつあります。生成 AI の普及には著作権侵害や剽窃などの法令違反・倫理違反につながる危険性は否定できませんが、大学教員として私は、この新しい技術を適切に活用することで、皆さんの学びの可能性を広げられるのではないかと感じています。

私は、生成 AI を「梃(てこ)」のようなものとして捉えています。梃の原理では、大きな岩を動かすために「支点」と「力点」が必要になります。学びにおいては、「支点」にあたるのが、皆さん自身の基礎的な力です。大学での日々の学修を通して培われる知識、論理的に考える力、そして情報を吟味する姿勢などが該当するでしょう。こうした土台があることで、生成 AI をより適切に活用しやすくなります。反対に、生成 AI に頼りすぎてしまうと、自分で考える機会が減ったり、誤った情報に気づきにくくなったりするおそれもあります。

また、「力点」となるのは、皆さんの関心や意欲、そして応用しようとする姿勢です。「もっと深く知りたい」あるいは「この課題に自分なりに向き合いたい」といった思いをもって生成 AI を活用すると、その働きはより大きなものになります。そうした使い方によって、ひとりでは気づけなかった視点に出会ったり、学びをさらに深めたりすることもできるはずです。

文部科学省の議論においても、生成 AI は人間の能力を補助・拡張し、可能性を広げる道具の一つとして捉えられています。これからの社会では、生成 AI を適切に活用する力がますます重要になるかもしれません。学生の皆さんには、大学生活という貴重な時間の中で、自分自身の土台となる力を育てながら、関心や意欲を大切にしつつ、生成 AI を適切かつ有効に活用してほしいと思います。

閲覧者向けメッセージ

現代はあらゆる面で変化が大きい時代です。変化に対応するための柔軟性や実力を身に付けましょう。大学での学びを通じて知識や論理的思考を磨き、変化を味方につけて、柔軟で実践的な実力を身につけていきましょう。